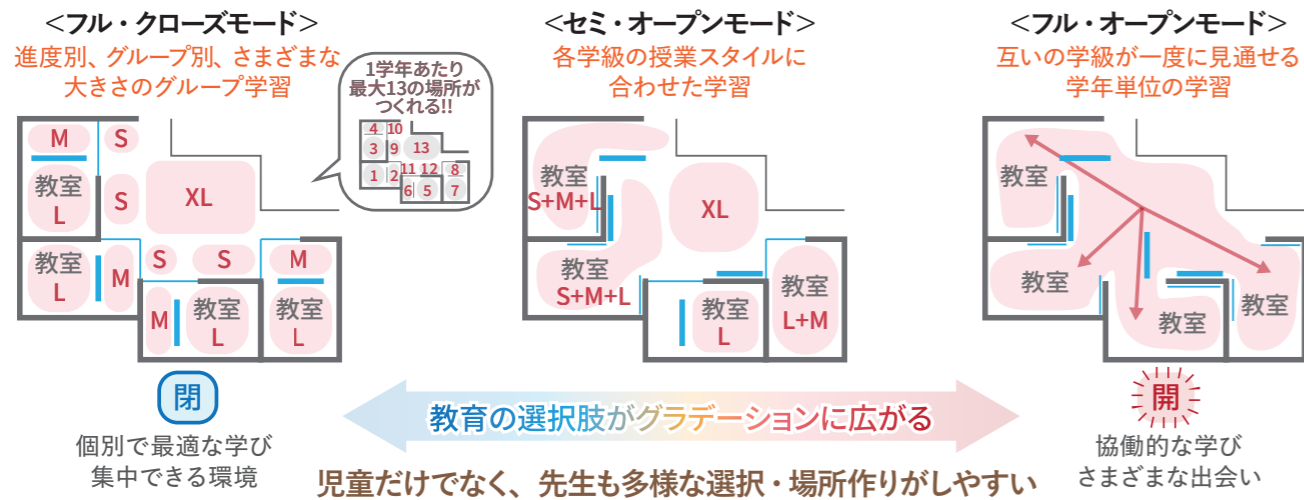


01

フレキシブルに仕様を変更できる 「カギ型形式の教室」

21世紀型学校では個々の適性に合わせた「最適な学び」と、子ども同士や多様な他者との「協働的な学び」の両方の実現が求められています。さまざまな出会いの場所をつくり、教育や活動の選択肢を増やすため、従来とは異なる「カギ型形式の教室」にすることで学習への興味・関心を誘発するオープンスペースを生み出し、それらを実現します。



新校建設事業 基本設計の ポイント

2024年3月に策定した「清瀬市新校開設に向けた基本構想及び基本計画」に基づき、老朽化した清瀬小学校を改築、2029年に「21世紀型学校教育」を実現する新校の開校に向け設計を進めています。児童、教職員、学校運営協議会とのワークショップやヒアリングを通じて、清瀬小学校と市役所をつなぐ地域との交流拠点「まちミチ」の名称や機能、新校舎に必要なスペースなど具体的な意見を収集しました。今回は、新しい学校の創設に向けた基本設計がまとまりましたので報告します。

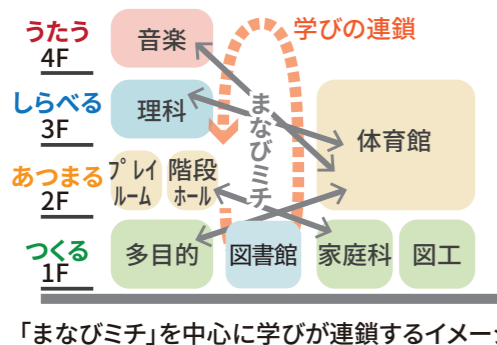


生きる力をはぐくみ 地域と共に歩む未来の学校

03

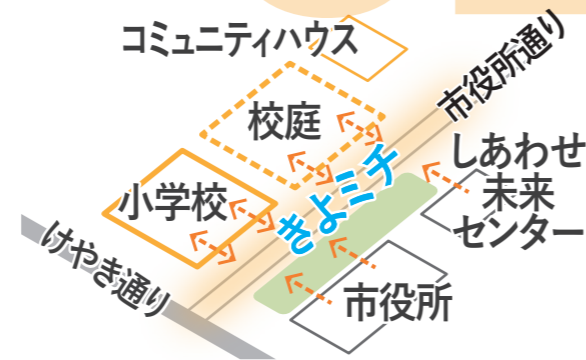
学びが連鎖する 「まなびミチ」で 新しい学習環境を形成

「つくる」「あつまる」「しらべる」「うたう」の4つの学びをつなぐ「まなびミチ」を整備し、特別教室を機能ごとに配置します。吹抜けなどで立体的につながること、教室をこえた出会いや気づきが生まれ、学びが連鎖的に広がります。児童の主体的な活動や創造性を高める、新しい学習環境の形成が期待されます。



02

「きよミチ」で 学校と地域、小学校と 中学校がつながる



学校と地域をつなぐ交流プロムナード「きよミチ」を整備することで、児童の安全な通学動線を確保すると共に、地域住民との自然な交流を促進します。日常的なふれあいが生まれることで、見守りや防犯意識の向上、地域との関係性強化が期待され、安心して開かれた学校づくり・まちづくりにつながります。

21世紀型 学校教育とは?

1 学びをつなげる

図書館、体育館、特別教室、学年ハウス、学校史ミュージアム

21世紀型学校「まなびミチ」を象徴する共用学習空間

2 教科が「まなびミチ」でつながる

家庭科、音楽、理科、図工、多目的(ラーニングコモンズ)

地域共創・協働拠点「清瀬ミライラボ」を形成

3 学校と地域をつなぐ

コミュニティハウス、校庭、小学校、市役所、しあわせ未来センター

市役所通り「きよミチ」をさらなる交流軸に

4 空と緑とつながる

風のミチ

「風のミチ」をつくり環境配慮を行う校舎

5 学びの環境を未来へつなぐ

広い校庭、将来の中学校、小学校

やがて訪れる中学校の立て替えを見据えた計画

安心して学べる学習環境 × 生涯学習の場としての学校 = 地域コミュニティの中核 を目指します